



好奇心や探究心を育む環境の構成の工夫

～友達と園庭にある自然物との関わりを通して～



特別研修員 幼児教育 西川明美 (幼稚園教諭)

実態と課題



- ・ 自然物を意識して見たり触れたりすることが少ない
- ・ 友達とじっくり遊ぶ姿があまり見られない

手立て

- ① 様々な気づきや発見を意識しながら取り組めるゲームを行う
- ② 気づきや発見を生かした遊びを友達と楽しむ環境の構成の工夫



好奇心や探究心を持って遊ぶ幼児

実践1 ゲームを通して自然物に触れよう① (年長児 6月)

<手立て① さいころコロコロゲーム>

さいころの各面に五感を通して探す言葉や自然物を貼り、出た面の内容を見付けたり、探したりするゲーム

子ども達と見付けたり探したりしたい物を決める



トゲトゲの葉っぱ、あったよ

自然物の変化や特徴、不思議さや面白さに気付く

実践2 ゲームを通して自然物に触れよう② (年長児 11月)

<手立て① ターゲットゲーム>

おはじきを的当てから少し離れた場所から投げ、止まった場所の自然物を見付けたり、探したりするゲーム

園庭にある自然物の写真を用意し、変化や特徴に気付けるようにする



写真撮影時と比べて生長している植物もあり、予想や新たな発見を楽しむ

自然物の特徴や気づきを生かしながら、自らの遊びを考えたり試したりしていく

<手立て② 友達と一緒に関わりを持てる場や幼児の言動を認める援助>



みんな見て！ひげじいさん

僕もやってみようかな

おもしろいこと考えたね。本物みたいだよ。

<手立て② 遊びのイメージや目的を引き出す援助>



いい音するね

はやく入りたいな

パリパリ温泉だ

葉っぱが温泉だったらいいなあ。

成果

- 幼児が意識して自然物を見たり触れたりしながら感覚や感触を体験したことで、様々な思いを巡らせ、興味をもって関わり、好奇心や探究心を高めながら遊びを進めていくことがわかった。
- 幼児一人一人が様々な自然に対しての新たな気づきや発見を生み出し、そのことを生かしながら遊びを考えたり工夫したりして、友達とじっくり取り組む姿が見られた。

課題

- 幼児が自ら身近な自然環境に働きかけ、様々な活動を生み出していけるように、じっくりと関われる時間や場などを確保する必要がある。
- 幼児が好奇心や探究心を持ちながら、主体的に遊びを進めていけるように、気づきや発見を友達と共感し合える環境の構成を工夫する必要がある。